

## 財団法人 二十一世紀文化学術財団設立趣意書

日本社会は、世界のなかの日本として広く世界の発展に貢献し、寄与する新しい文明を形成してゆかねばならない。いまわれわれは21世紀をめざして、経済、社会、文化の全般にわたっての学術研究を一段と推進していくことが肝要である。最早、わが国は模倣が許されない。また、特殊性だけにこだわっていることも通用しなくなってきた。世界のなかの日本として、どうあるべきか、世界に貢献できるものは何であるかを考える必要のある時代なのである。

故木川田一隆氏は生前、技術文明が高度に進展するなかで、ややもすると人間性が失われるのを憂い、人間主体の立場から機械文明と人間社会の調和を説くとともに、人間本位の新しい組織、新しい人間教育、新しい環境を整備することにより、真に健全な文明の発達と社会の進歩を実現しようと提唱してこられた。

これからこそ、木川田氏の主張を推し進めねばならぬ時代だと信じ、故人と縁故の深かった者が故人の意思を尊重し、ここに基金をきよ出し、上述の趣旨にそった学術研究への奨励ならびに学術的交流を主たる事業とする財団法人二十一世紀文化学術財団を設け、新しい社会づくりに一微の力を捧げたい。

## 財団設立の経緯

蘆原義重関西電力会長、河野文彦三菱重工業相談役、中山伊知郎一橋大学名誉教授等故木川田一隆氏と親交のあった人たちが集まり、すぐれた業績を残した故人の遺志を後世に伝えるべく記念事業として、木川田記念財団を設立することになった。

**昭和 53 年 1 月 31 日** 木川田記念財団の設立懇談会及び発起人会を開き、故人が生前畏敬していた中山伊知郎一橋大学名誉教授を設立代表者に決めるとともに、「二十一世紀文化学術財団」としての設立趣意書、寄附行為、事業内容・収支予算の大綱及び設立準備委員の委嘱等を決め、主務官庁との折衝並びに募金についての準備に入る。

**昭和 54 年 1 月 31 日** 文部省より財団法人設立の認可を受く。

**昭和 54 年 3 月 15 日** 第 1 回理事会及び評議員会を開催。  
中山伊知郎理事長を議長に理事及び評議員の選任、学術奨励金の交付及び研究者の招へい・派遣等に関する選考委員の選任、同選考規程の承認等を行う。